

## 港区立青山中学校 各教科の授業改善推進プラン

国語	昨年度の課題	1 学年は4観点においては、区学力調査の結果が全国平均正答率を上回っている。話す・聞く能力がやや下回っているため、聞き取り能力と話す能力の定着を図り、思考力を育む教材を工夫する。 2・3 学年は書く能力の正答率が高く、漢字・語句等の言語事項の習得に課題がある。小テストや教材の工夫で知識分野を定着させ、基礎・基本を徹底するとともに、習得した力を活用する場面を設定し、思考力を育てる。
	今年度の取組	1 学年は4観点において区学力調査・都学力調査の平均正答率を上回っている。話す・聞くが比較的低いので、授業の中で要点を押さえて聞く活動を行う。 2 学年は4観点において区学力調査・都学力調査の平均正答率を上回っている。今後、思考力を育む教材を工夫する。 3 学年は、読む能力は高いが、話す・聞くに課題がある。授業の中で、要点を押さえて聞いたり、論点を押さえて話す活動を行う。
社会	昨年度の課題	基礎的な内容の定着のため復習の習慣化を図るとともにプリント学習を実施する。様々な社会的事象について、課題意識をもって自分の意見を表現できるようにする。また、グループワークを取り入れ、思考力を高める。
	今年度の取組	基礎的な内容の定着のため小テストやプリント学習を実施する。様々な社会的事象について、課題意識をもって自分の意見を表現できるようにする。グループワークを取り入れ、思考力を高める。
数学	昨年度の課題	1 学年では、区学力調査の結果が全国平均正答率をやや下回っていた。観点別に見ると、数量や図形などについての知識・理解が不足している。小学校の算数の復習から始め、基礎・基本を大切に、正の数・負の数を反復練習する。2・3 学年は、区学力調査の結果が全国平均正答率を超えているが、2 学年では関数、3 学年では資料の活用がやや劣っている。数学的活用、ICT等の活用により定着を図る。
	今年度の取組	習熟度別学習を通して一人一人の言語活動を大切にしながら基礎・基本の指導を継続して行う。発展的な内容も積極的に扱う。小テスト・復習プリントなどを活用し反復練習を行い数学的な技能、見方や考え方の指導を丁寧に行う。ICTの活用を行い生徒の興味・関心を引き出す。
理科	昨年度の課題	実験・観察の技能の観点で単元により差が見られる。知識・理解の観点で全体的にやや弱く、活用面では標準的であるが、基礎的な内容は学年によって十分ではない。基礎的な内容を繰り返し学習し、教材の工夫をして基礎的な内容の定着を図り、思考・表現や知識・理解の観点を伸ばしていくことが課題である。
	今年度の取組	実験・観察を多く取り上げ、興味・関心を引き出し、実験・観察の技能の向上を図る。考察する場面を多く取り入れ、発表して表現する場を設け、科学的思考力を育成する。また、繰り返しの学習を工夫し、知識の定着を図る。
音楽	昨年度の課題	技術力の個人の差が大きい。音符の長さ、強弱記号など基礎的な理解が不十分な生徒が多い。一人一人の取り組みから、グループなどの全体への曲作りの時間がもう少し必要である。
	今年度の取組	様々な音楽活動を通して、楽譜に記載されている基本的な楽典を理解する。個人個人の技術力を向上させるとともに、全体での協調性を養い、より良い音楽を作る指導を行う。幅広い分野の音楽を学び、一人一人の表現の幅も広げていく活動を行う。

## 港区立青山中学校 各教科の授業改善推進プラン

美術	昨年度の課	年3回学年ごとに進めてきた美術館・大学との協同による鑑賞授業の成果が出てきているが、1年間を通じ、授業にどう反映させ、他機関との連携が生徒の自立に繋がっているのかを評価し、改善していく必要がある。
	今年度の取	美術館鑑賞事前授業の前に、学芸員、大学生の支援を得ることができた。事前授業では、生徒が主催する授業が実現し、鑑賞後も美術館学芸員と大学生が中学生の作品展示に関わり、継続的に生徒と関わっている。
保健体育	昨年度の課	体力の二極化が顕著であるため、基礎的な運動を継続的に実践していき、体力の向上を図る。また、集団の一員として行動する意識の向上、安全面に対する意識の向上が必要である。運動技能の面では、自己の得意な領域等を探究し、体を動かすことの楽しさをより味わえるような指導方法の工夫を実践する。
	今年度の取	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な体力の向上を図るために、授業始めに持久力を高める運動を継続的に行う。</li> <li>・体育的行事を通して集団の一員として行動することの意義を理解させる。</li> <li>・体育分野では、幅広い領域で運動を行い、それぞれの競技特性を味わうことで、運動に親しむ態度を育む。</li> </ul>
技術・家庭	昨年度の課題	<p>&lt;技術&gt;座学と実習を関連付けて、興味・関心を引き出し、学習意欲を向上させる。学習や実技の振り返りの機会を設定し、知識理解の定着や技能の向上を図る。</p> <p>&lt;家庭&gt;家庭における体験や習慣の個人差が大きいため、個別指導を多く取り入れているが、個々に応じた支援の方法をさらに工夫する必要がある。授業で学習した生活の基礎知識・技術を家庭生活の実践に結びつけられるよう工夫する。</p>
	今年度の取組	<p>&lt;技術&gt;興味・関心がもてる教材設定・研究に努め、学習意欲を高める。物づくりを通して、技能や創意工夫を学び、座学より知識を習得し、その知識と物づくりとの関連性を知る。</p> <p>&lt;家庭&gt;家庭における経験知が少ない生徒でも理解しやすく、具体的な教材を工夫し、全体指導で理解できる生徒を増やしていきたい。実習を多く取り上げ、生活の自立に必要な基礎的知識・技能の定着を図る。</p>
英語・国際	昨年度の課題	<p>第2学年は区学力調査の結果を見ると基礎・活用共に目標値を上回っているが、観点別に見ると表現の能力に課題がある。</p> <p>第3学年も目標値を達成しているが、観点別に見ると知識・理解に課題がある。入試を見据えて文法や語彙の演習を増やし、発展的な表現活動の場をさらに増やしていく。また、生徒が英検3級以上の級を取得できるように環境を整える。</p>
	今年度の取組	<p>第2学年は4技能のバランスを考えながらも、授業にルーティンとなる表現活動を積極的に取り入れる。</p> <p>第3学年は入試を見据えて文法や語彙の演習を増やし、発展的な表現活動の場をさらに増やす。また、生徒が英検3級以上の級を取得できるように環境を整える。</p>